

探究学習「課題研究」における教師の役割

学籍番号 219337
氏名 上田 真衣
主指導教員 太田 順康
副指導教員 石川 美久

1. 背景

はじめに

平成30年に高等学校学習指導要領が告示され、高等学校の教育課程「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」へと変更し、その位置付けが見直された。これに先立ち、文部科学省は「スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 」や「スーパーグローバルハイスクール (SGH) 」、「ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業 (WWL) 」を実施する等、高等学校の“探究学習”を重視し支援してきている。学校は時代の変化に応じた学習環境を創り出し、教師は教科学習だけでなく探究学習の指導力も身に付ける必要がある。

研究目的

本研究では、これからの教師に求められる資質に「探究学習の指導」が必要であるのではないかと考え、実習校教員らとともに課題研究の授業を担当し、省察を繰り返しながら探究学習における教師の役割について見出すことを目的とした。また、本研究における授業実践が探究学習の指導記録として今後の参考資料となるように事例報告としてまとめる。

研究方法

体育講座の課題研究のうち 3 グループを担当し、生徒の出来事や教師の指導内容をノートに記録し省察した。より正しく記録をとるために授業中は IC レコーダーで録音した。活動における出来事や発言、省察を指導記録としてまとめ、探究活動及び自己省察を振り返り、探究学習における教師の役割や関わり方を見出した。

2. 探究的な学習

実習校の探究学習

平成14年度に大阪府で最初にSSHの指定を受けて以来、理系の2年生を対象に課題研究を実施してきた。平成26年にSGH、平成31年にWWLの拠点校に指定され、WWLの指定は昨年度終了したがその取組は継続されている。現在は、2年生全員を対象に課題研究を実施しており、生徒は興味ある分野について個人又はグループで探究活動を行う。

課題研究の概要

実習校の課題研究は、国語・社会・数学・物理・化学・生物・地学・体育・英語・音楽の講座を編成し、各教科の教員が担当する。2年生は1年間週1コマの授業時間に探究活動を行う。本研究では、体育講座内の3つのグループを担当した。

3. 授業実践

担当グループについて

授業実践では3グループを担当した。①肺活量の鍛え方の検証をテーマに肺活量が向上するトレーニングを研究する「肺活量グループ」、②ダンス部のストレッチ考案をテーマに柔軟性が向上するストレッチを研究する「ストレッチグループ」、③視力改善をテーマに視力低下の原因や視力改善につながることを研究する「視力グループ」である。

指導記録

指導記録は、生徒の探究活動に関する発言と筆者の発言及び発言の意図や自己省察を記載している。4月から12月までの期間にあった課題研究の授業及び9月に実施された中間発表のものである。

4. 振り返り

探究学習における教師の役割とは

研究テーマは、生徒の興味・関心を基に決定するが、テーマが決まらない時は教師からアイデアを提供することがある。そのため、教師自身の知識を増やしておいたり、テーマを用意しておいたりしておくことが望ましい。実験中は、主に生徒は情報収集をする時間になる。その中で、実験が上手くいった・上手くいかなかった理由は何か、なぜそのような結果になったと思われるか等、教師からの発問で気づきを与え、思考を促すと良い。データ解析は、データに相関があるかを調べるため、教師は統計分析に関する指導ができる準備をしておいた方が良い。まとめ・発表は、生徒の意図を汲み取りながら整理していく。教師は研究の先の見通しや全体像は常に把握し、フィードバックしながら生徒と対話を積み重ねていく。

授業実践を振り返って

グループによって研究内容や活動が違ったことから、生徒の状況に応じた指導ができるように教師自身の引き出しを増やしておく必要がある。また、生徒の興味・関心を引き出したりグループの状況をみて必要に応じた助言したりする。動機付けを高めて導く時はコーチング、教師自身の経験を基に実験方法を助言したり統計分析の方法や図表・グラフの作成を指導したりする時はティーチングであったことから、研究内容や段階によって教師の役割は変化すると考えられる。「教える」のではなく、自ら問いを持ち課題解決や新たな発見に向けて探究することができるように働きかけ、状況に応じた指導をすることが探究学習における教師の重要な役割だと考える。